



わたし「私 もパウロのように選びの器 です」

パウロに与えられた使命、みことばが、パウロをどのように引っ張って導かれたかをいっしょに見ながら、「私 も選びの器 だ」という確信を持って祈りましょう。

(使徒9:15) しかし、主はこう言われた。「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器 です。

(使徒1:8) しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力 を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。

## 1課 ローマも見なければならぬ

フォーラムのポイント：「御靈の示しにより」

使徒19:21

これらのことが一段落すると、パウロは御靈の示しにより、マケドニヤとアカヤを通ったあとでエルサレムに行くことにした。そして、「私はそこに行ってから、ローマも見なければならぬ」と言った。

パウロが、自分が神様のために目標を目指して告白したのではありません。パウロがこのように告白したのも、御靈の示しによってできたことです。

主役、主体は神様であり、人ではありません。

すべての人の主役、主体は「神様、キリスト」です。

「エルサレム」（イスラエルの子孫）に行くことは、パウロが自分の意志で行こうとしたのではなく、使徒1:8にある「みことばの成就」の流れの中で、導かれたということです。



## 2課 ローマでもあかしをしなければならない

フォーラムのポイント：「主が」

ここでも主体は「主（神様）」です。

使徒23:11

その夜、主がパウロのそばに立って、「勇気を出しなさい。あなたは、エルサレムでわたしのことをあかししたように、ローマでもあかしをしなければならない」と言われた。

1課で見た使徒19章から、2課の23章の間にあったのは、なんでしょうか。

エペソ→エルサレム→ローマへ

エペソで大きな働きがあり、その後、「パウロは御靈の示しにより、・・・エルサレムに行くことにした。そして、『私はそこに行ってから、ローマも見なければならない』と言った。」と書いてあることが成就して、エルサレムに行きました。エルサレムで大きな騒動が起こり、パウロが捕らえられます。そこで、主がパウロに告げられます。

その夜、主がパウロのそばに立って、「勇気を出しなさい。あなたは、エルサレムでわたしのことをあかししたように、ローマでもあかしをしなければならない」と言われた。(23:11)

まだ、パウロの使命は終わっていないということです。

2課は、使徒1:8にある「**ユダヤとサマリヤの全土**」の成就ということです。



3課 恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます

フォーラムのポイント：「神の御使いが」

使徒27:23-24

昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

ここでも主体は「神様」です。

「異邦人、カイザル（王たち）」に向かって行く場面です。

どんな危機や問題があっても、神様がくださった使命、みことばが成就することを見ましょう。

いま、生活の中で、勉強して、メッセージを聞いて、学校で、いろいろな環境の中で起こっているすべては、神様の計画の中で流れていっているということです。問題があっても、だいじょうぶです。選ばれた器であり、使命が与えられているので、神様が主体となって、引っ張って導いてくださいます。



## 4課 止められない福音

フォーラムのポイント：「すべてが益となる」

ローマ 8:28

神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

「すべてのことを働くとして益とする」ということは、

ローマ 8:35 で言われているようなことがあっても、ということです。

「(私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。) 患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。」

このようなことが、神様の選びの器にはない、ということではなく、このようなことがあっても、だいじょうぶだということです。こののようなすべてのことを通して、神様は「ただイエス・キリストを宣べ伝える」「イエス・キリストを現わす」益としてくださるということです。

もし、それが、死であっても、神様には益なのです。

ピリピ 1:20-21

それは私の切なる祈りと願いにかなっています。すなわち、どんな場合にも恥じることなく、いつものように今も大胆に語って、生きるにも死ぬにも私の身によって、キリストがあがめられることです。私にとって生きることはキリスト、死ぬことも益です。

これらの告白が、パウロの告白ではなく、  
レムナント、働き人の告白となることを  
お祈りします。

6月、与えられたみことばを深く默想して  
神様と疎通する祈りを通して勝利する  
一か月となりますように。

